

第 1 学年の実践

1. 主題名 しぜんとなかよく D (18) 自然愛護
2. ねらい どんな気持ちで植物や動物の世話をすればよいかについて考え、優しい気持ちで動植物に接しようとする心情を育てる。
3. 教材名 「あさがお」(光村図書 「きみがいちばんひかるとき」 1)

4. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

自分たちを取り巻く自然環境に目を向け、それを大切にしようとする気持ちを育てるためには、身近な動植物との直接的な触れ合いが重要となる。その触れ合いを通して、どんな小さな動植物にも生命があることを理解し、優しい気持ちで接することが大切である。動植物を慈しみ、大切にしようとする心情を育てていきたい。

(2) 児童の実態について

児童はこれまでの生活科の学習の中で、あさがおをはじめとする植物の栽培を経験してきている。自分で種を植え、水をやり、時には太陽の光に当てようと鉢を移動させるなど、成長を見守っており、植物に対する慈しみの心も育ってきている。また、毎日の観察を通して、植物がぐんぐん成長する様子を目の当たりにすることで、様々な知識と気づきを得ている。この知識や気づきを、動植物全般への優しい気持ちに深化できるようにしていきたい。

(3) 教材について

あさがおの種を植え、葉が出てつるが伸び、花が咲いて実になるまで様子を、そのときに感じたことと共に記した児童作品である。児童の発見や驚きが、時系列に沿って率直な言葉で語られており、どの児童にもわかりやすく、自分の栽培体験と重ね合わせて考えることができる教材である。実際に自分が植物を育てているときの気持ちとも重ね合わせ、栽培の場面だけでなく、自然界の動植物にも優しい気持ちをもてるような構成となっている。

5. 教材分析

話のすじ	心の動き	気付かせたいこと
5月13日に家で種を植えた。指で土を掘って、5個植えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・種はごつごつして硬かった。 ・早く芽を出せ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおの発芽を期待していること。 ・これからの成長や変化に胸を躍らせているという気持ち。
5月25日にあさがおが芽を出した。31日には大きな葉が出て、6月18日にはつるが伸びて、支柱に巻き付いてきた。	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおの芽はかわいいな。 ・最初に出たちょうちょみみたいな葉っぱより、大きくてざらざらしている葉が出てきたよ。 ・つるはへびみたいだったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおの成長を愛おしむ気持ち。 ・成長の変化に驚くとともに、嬉しいという気持ち。
7月にはつぼみから花が咲き、9月12日には、そのあとからたくさんの実ができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・つぼみはソフトクリームみたいでおいしそうだな。 ・花はほうせきみたいできれいだったよ。 ・実をぶちっと潰すと、種が転がったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおに対しての親近感。 ・さらなる愛着や、成長を願う気持ちの高まり。

また違う花も育ててみたくなっ たな。		・あさがおを育てたことで、他の植 物への興味・関心の高まったとい うこと。
-----------------------	--	---

6. 主体的・対話的で深い学びにせまるための授業の工夫

(1) 問題意識をもたせるために

生活科「きれいにさいてね わたしのはな」を関連付けて授業を行う。この時期の児童は、生活科で動植物と触れ合ったり、育てたりする経験を積んでいる。特にあさがおの世話はどの児童も意欲的に行っており、観察カードには同じように気が付いたことやそのときの気持ちを書き記している。本教材も生活科の学習も時系列で行っており、生活科での学んだときの気持ちを反映しやすいと考えた。そこで、あさがおの成長の様子を児童自身が育てたあさがおに置き換えて考えさせることで、より深い学びにつながると考えられる。そのときの写真や観察カードを提示しながら、丁寧に学習を進めていきたい。なお、本教材は、次の「きゅうこんをそだてよう」の学習の導入としても活用し、生き物を大切にしようという意識を次の学習につなげようと考えた。

(2) より主体的な学びにつなげるためのワークシート

本教材を「どんな気持ちでお世話をしたら、生き物となかよくなれるのだろう」という学習課題のもと、進めていく。最後には「あさがおは、育ててくれた人に、どんな気持ちを伝えたいのかな」という発問を、ワークシートに書かせていく。自分だけが満足する育て方ではなく、あさがおも嬉しい気持ちになるように育てるとよいということに気付かせ、植物が喜んでくれるのは、自分自身も嬉しいという気持ちに共感させ、学びを深めていきたい。

7. 本時の学習

(1) 本時のねらい

どんな気持ちで植物や動物の世話をすればよいのかを考え、これからも優しい気持ちで動植物に接しようとする心情を育てる。

(2) 本時の評価の視点

〈多面的・多角的な見方・考え方〉

・自分と違う立場や感じ方、考えを理解したり共感したりしていることに着目する。

〈自己を見つめる〉

・教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目する。

(3) 展開

学習活動 (○基本発問◎中心発問・実際の児童の反応)	・支援と留意点 * 発問の意図 ☆ 評価の視点
1. 植物や動物を世話した経験を振り返る。 ○いままでに植物や動物の世話をしたことがありますか。 ・かぶとむしを育てたことがある。 ・家では犬を飼っている。 ・あさがおを育てたよ。 ・家でも学校でもあさがおを育てたね。	* これまでに動植物の世話をした経験を発表させることで、本時の動植物との関わりに意識を向けさせる。 ・あさがおを育てたという経験を元に、今回の話もあさがおに関連する話ということ伝えて、意欲を高める。
2. 教材「あさがお」を読んで話し合う。 ○このお話に出てくる子は、あさがおと仲良くなれたと思いますか？また、皆さんは学校で育てたあさがおと仲良くなれましたか？	* 「仲良くなれた」と答える子が多い。そこで、「どうしたら仲良くなれるのか」「仲良くなるには何が大切なのか」を生活科の実践も思い出しながら、学習していくことを

- ・仲良くなれた
- ・自分たちも仲良くなれたよ。

伝え、問題意識として設定する。

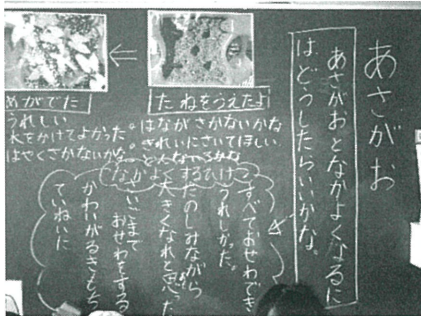
いきものとなかよくなるためには、どんなきもちがたいせつなのだろう

○あさがおが成長してきたときの様子を発表しましょう。

- ・芽が出たとき、嬉しかった。
- ・早く花が咲いてほしいな。
- ・もっと大きくなってほしい。
- ・どんな色の花がさくのかな。

*教科書の「ぼく」と同じような活動を生活科で学習してきている。観察しているときの気持ちを想起し、登場人物を自分に置き換えて考えていくことを伝える。

- ・教科書と同じ場面を生活科の時間に取っておいた写真に代えて、提示する。
- ・生活科の掲示物を見ながら、話し合ってもよいことを伝える。



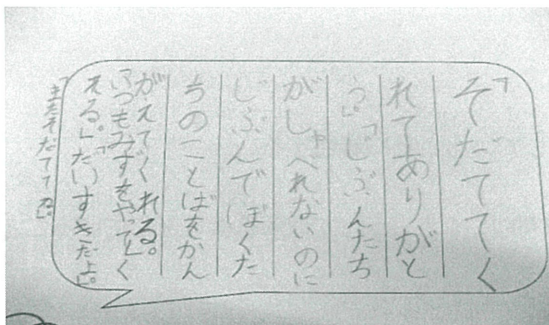
実際の写真で成長を振り返ることで、より世話をしているときの気持ちを想起できた。児童も実際の写真を見ながら、「思い出した」「ぼくもそう思った」などと活発に意見を交流していた。



○あさがおになって、育ててくれた人に手紙を書いてみましょう。

- ・育ててくれてありがとう。
- ・また、育ててね。
- ・育ててくれたことは忘れないよ。
- ・仲良くなれてうれしいな。

*植物にも命や心があり、植物も優しくされると嬉しいという気持ちに迫りたい。自分だけではなく、生き物の気持ちを考えることで、学習課題を深めていく。



「しゃべれないのに、ぼくたち（あさがお）を考えてくれてありがとう。大好きだよ」というような、植物に寄り添っている文章が多くみられた。



◎生き物と仲良くなるためには、どんな気持ちが大切なのでしょうか。

- ・楽しみながら育てようとする気持ち。
- ・「大きなあれ」と思いながら世話をする。
- ・生き物を好きになる。
- ・最後まで世話をすること。
- ・かわいがる気持ち。

*本時の学習課題を振り返り、生き物を大切にしてくるとよいということをおさえる。

☆あさがおを育てた時の気持ちや友達の考えを聞いて、生き物と仲良くなるために大切なことを考えている。

3. 自分の生活を振り返る。

○これから、動物や植物を、どのように世話をしていきたいですか。

- ・毎日、気持ちを込めて世話をする。
- ・家族だと思って世話をする。
- ・今までよりも、水を多くあげたい。

4. 球根の紹介をする。

○今度は、チューリップの球根を育ててみましょう。今日、学んだことを生かして育てたら、チューリップとも仲良くなれそうですね。

- ・やったあ。
- ・植えるのが楽しみ
- ・チューリップとも仲良くなれるようにがんばるぞ



実際にチューリップの球根を見せて、触れさせると「すごい」「早く植えたい」「きれいな花がさくといいな」といった声上がり、植物を大切に育てようとする気持ちの高まりがみられた。

8. 実際の板書

